



本弘寺別院
秦野市渋沢 1398-12
TEL : 0463-82-9577
✉ honkouji.wakka@gmail.com

こども仏教

ブッダがせんせい

まわりの人がやってもやらなくても
自分がやるべきことを
ちゃんとやろう

友だちや先生とやくそくしたことを、ちゃんと守っていますか。お母さんやお父さんと決めたことを、わすれずにやっていますか？

ほかの人がまもっていないとか、やっていないからって、きみがやらなくてもいい、という理由にはなりません。やくそくや決めたことを、ちゃんとやるのは、先生のためやお母さんのためではありません。全部、自分のためなのです。きみが少しずつ成長して、みんなに好かれ、誰とでもなかよくできる人になるために、とても大事なことです。

「ブッダがせんせい 心を育てるこども仏教塾」
永岡書店出版より引用

ブッダは『他人の間違いに目を向けない。他人がしたこと、しなかったことに目を向けない。ただ、自分がやったこと、やらなかったことだけを見つめなさい』と説いています。

娘たちの喧嘩を見ていると、どっちもどっちなのですが、相手のことは悪く見えるのでしょうか。自分のことは棚に上げて、相手のことばかり文句を言っています。私も同じだな～と二人を見ていて教えられることがたくさんあります。 坊守

「ご恩 おもえばみな ご恩 この才市もご恩でできました
なむあみだぶつ なむあみだぶつ」

妙好人みょうこうにんといわれた浅原才市あきはら さいいちさんの詩です。
念仏の御教えを端的でありながら、深い眼差しで詠い上げられています。

「命は誰のものですか」と問いかけると、ほとんどの方が「私のものです」と答えられます。では、その「私」という、あなたはとは一体なんですか、と重ねて問いますと答えに詰まってしまう。

お釈迦様は、全てのものは、縁に依って生滅変化するということに覚られました。
そのことを『縁起』といい、仏教の根本思想を表す言葉として使います。

※縁起は、お釈迦様が初めて説かれた御教えしよてんぼうりん(初転法輪)といわれています。(表紙写真)

私においても、固定的な実体として「私」というものが存在しているのではなく、様々な原因や条件に依って「私」が形作られていると見るのです。固定的なものならば、成長することもなければ、朽ちることもないのです。しかし、「常」なるもの、変化しないものは何一つないのです。

どこにも存在しなかった「私」がこの世に生を受けました。性別も容姿も才覚も時代も環境も親も何一つ選べずに、本当に数限りない不可思議なご縁に依り、今の「私」というものが居る。老病死ということも、選択出来るものは何一つありません。病に伏すご縁がもよおせば病に伏し、死ぬご縁がもよおせば死んで往く、また生きるご縁があれば生きるのです。

このように、私たちの良い悪いという都合に関係なく、ご縁に依って「私」は生滅変化するものであるとお釈迦様はお説き下さいました。

浅原才市さんは、そのご縁をご恩と表現され、親鸞聖人はそのご恩を「他力」と表現されました。その「他力」ということをお釈迦様は阿弥陀如来とお説き下さっているのです。

浅原才市さんは、その阿弥陀如来の願い(なむあみだぶつ)に出会われたご縁が『私』を生み出しているとはっきり詠い上げられているのです。

報恩講のご案内

とき 11月18日(日) 11:00～ ところ 本弘寺別院

✿ご参詣いただける方は、お寺でお弁当をご用意しますので、お寺までお電話(0463-82-9577)またはメール(honkouji.wakka@gmail.com)にてご連絡くださいませ(締切 11月15日まで)

心のそなえ

今年、大型の台風や北海道で発生した震度7の地震など日本各地で大きな被害が出ました。これを機に防災の備えを見直された方も多いのではないのでしょうか。

みなさん、防災グッズばかりを備えていらっしやいますが、心の備えは大丈夫ですか。

災害が起きるたびに、以前、住職が話されていたご法話をふと思い出します。

「災難に遭う時節には災難に遭うがよく候、
死ぬ時節には死ぬがよく候、
是はこれ災難をのがるる妙法にて候」
江戸時代の禅僧、良寛和尚の言葉です。

傲慢になりがちな私たちですが、自然災害を目の当たりにすると、自然の中で生活を営んでいることを思い知らされますね。ぜひ心も備えましょう。

意外な組み合わせ!! ★



ヨーグルトを販売している方から、ヨーグルトにマシュマロを一晩入れたものを食べると、マシュマロのゼラチンが溶けて喉に良いですよ～と教えてもらいました。今年は、咳がなかなか治らないという声を聞きます。良かったら、試してみてください(^_^)

法話会のお知らせ

法話会にいらっしやいませんか？

❖持ち物:お念珠

❖費用: 100～1000 円程

富鶴浄苑

14:00～

11月4日・12月2日

本弘寺別院

11:00～

11月18日・12月18日

浄土真宗 Q&A

Q.ご先祖にはお水をお供えるのでしょうか？

A.浄土真宗のお給仕では、お仏壇にコップのお水や、湯飲みに入れたお茶を置くことはありません。お仏壇とは亡くなった方を安置する場所ではないので、故人のノドが渴いてお茶や水を飲むという考え方がないからです。

その代わり、極楽に流れる清らかな水(八功德水)の象徴として、水をたたえた華瓶けいびんに「お櫛しきみ」を挿して飾ります。

※東本願寺 HP より引用

※華瓶とは、お仏壇内のご本尊の近くにある小さな水入れです。



※「お櫛」は、香の花と呼ばれることもあり、花屋さんスーパーなどで見かけます。しきみは、水を腐らせない成分を含んでいるので、華瓶の水が、清らかな水であることを表しています。夏場、お花をお供えると暑さで水が腐ってしまう時などに、しきみをお供えるのも良いでしょう。

ものづくりの会も霊園での法話会の前(第一日曜日 13:00～)に開催中です!!